

十字架栄祭

輔祭 君や、祝讃せよ、

司祭 父と子と聖神の国は崇め讃めらる今も何時も世世に、

(詠)「アミン」

大 連 禱

輔祭 我等安和にして主に祷らん、

(詠) 主 憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい}霊の救いのために主に祷らん、

輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一のために主に祷らん、

輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とをもって、此に来る者のために主に祷らん、

輔祭 教会を司る我等の主教(某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、^{ことごと}悉くの教衆、及び衆人のために主に祷らん、

輔祭 我が国の天皇及び国を司る者のために主に祷らん、

輔祭 此の都邑^{まち}と凡の都邑^{まち}と地方、及び信をもって、此の中に居る者のために主に祷らん、

輔祭 氣候順和、五穀豊饒、天下泰平のために主に祷らん、

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、^{かんなん}艱難に遭う者、^{とりこ}虜となりし者、及び彼等の救いのために主に祷らん、

輔祭 我等諸の^{うれい}憂愁と^{いかり}忿怒と^{あやうき}危難とを免るがために主に祷らん、

輔祭 神や、^{なんじ}爾の恩寵をもって、我等^{たす}を助け救い^{まも}憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・^{しょうしんじょ}生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身をもって、ならびに^{ことごと}悉くの我等の^{いのち}生命をもって、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 ^{なんじ}爾に

司祭

(高声) 蓋凡そ光栄尊貴伏拝は^{なんじ}爾父と子と^{せいしん}聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠)「アミン」



第一アンティフォン、第二調、(第21聖詠)

ソロ (附唱) 救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。

全員 (附唱) **救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。**



ソロ (第一句) 我が神よ、我が神よ、我に聴き給へ、何ぞ我を遣てたる。

全員 (附唱) **救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。**

ソロ (第二句) 我が呼ぶ言は我が救より遠し。

全員 (附唱) **救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。**

ソロ (第三句) 我が神よ、我晝に呼べども、爾耳を傾けず、夜に呼べども、我安きを得ず。

全員 (附唱) **救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。**

ソロ (第四句) 然れども爾聖者はイズライリの讃頌の中に居るなり。

全員 (附唱) **救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。**

ソロ 光榮は父と子と聖神に歸す、今も、何時も世々にアミン

全員 (附唱) **救世主や、生神女の祈禱に因りて我等を救ひ給へ。**

小連禱

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、 (詠) 主 憐めよ

輔祭 神や、爾^{なんじ}の恩寵を以て、我等を^{たす}助け救ひ^{まも}り護れよ、 (詠) 主 憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女^{しょうしんじょ}・永貞童女マリヤと、
諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に^{ことごと}悉くの我等の生命^{いのち}
を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主^{なんじ} 爾に

司祭 (高声) 蓋^{けんぐい}権柄及び国と権能と光榮は^{なんじ}爾父と子と聖神^{せいしん}に歸す、今も何時も世々に、

(詠) 「アミン」



第2アンティフォン、第二調、(第73聖詠)

ソロ (附唱) 神の子、身にて釘せられし主よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。
全員 (附唱) **神の子、身にて釘せられし主よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。**



ソロ (第一句) 神よ、何すれぞ永く我等を棄てたる。
全員 (附唱) **神の子、身にて釘せられし主よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。**
 ソロ (第二句) 爾が古より獲たる会を記憶せよ。
全員 (附唱) **神の子、身にて釘せられし主よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。**
 ソロ (第三句) 爾が居る所の此のシオン山を記憶せよ。
全員 (附唱) **神の子、身にて釘せられし主よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌ふ者を救ひ給へ。**
 ソロ (第四句) 神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。
全員 (附唱) **神の子、身にて釘せられし主よ、我等爾に「アリルイヤ」を歌**

ふ者を救ひ給へ。

ソロ (6調) ソロ 光栄は父と子と聖神に帰す、今も、何時も世々にアミン

神の獨生の子 並びに ^{ことば}言よ、

死せざる者にして、我等を ^{すく}救はん為に ^{あまん}甘じて 聖なる生神女、永貞

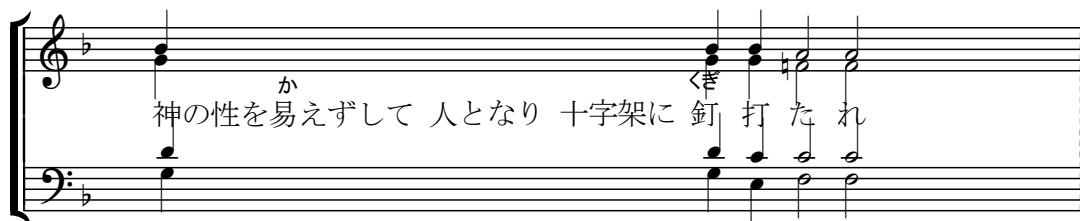
童女マリヤより 身を取り、

神の性を易えずして 人と為り、十字架に ^{くぎ}釘うたれ、

死を以て 死を踏み破りし ハリストス神よ、

^{せいさんしや}聖三者の ^{いつ}一として、

父 及び ^{せいしん}聖神と共に ^{さんえい}讚榮せらるる (の) 主よ、我等を 救い給え。



死を以て 死を踏み破りし ハリストス か み や、 聖三者 の

い っ と し て 父と聖神とともに 讃美せられる 主 や、

我等 を す く い た ま え。

小連禱

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

(詠) 主 憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

(詠) 主 憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋権柄及び国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主なんじに アミン

第三倡和詞、第一調、第98聖詠。

ソロ （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。

全員 （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。

The musical score is written for four voices: Soprano (S), Alto (A), Tenor (T), and Bass (B). It is in G major (one sharp) and 4/4 time. The lyrics are in Japanese. The first system contains the first two lines of the verse. The second system contains the next two lines. The third system contains the final line of the verse, followed by a double bar line.

Soprano (S): 主やなんじの たみを すくい 爾の業に福を くだせ
Alto (A): 主やなんじの たみを すくい 爾の業に福を くだせ
Tenor (T): 我がくにに さいわいを あたえ 爾の 十 字 架 に て
Bass (B): 我がくにに さいわいを あたえ 爾の 十 字 架 に て

Soprano (S): 爾のすまいを まも た ま え
Alto (A): 爾のすまいを まも た ま え
Tenor (T): 爾のすまいを まも た ま え
Bass (B): 爾のすまいを まも た ま え

ソロ （第一句）主は王たり、諸民戦くべし。

全員 （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。

ソロ （第二句）主は王たり、諸民戦くべし、彼はヘルウィムに坐す、地は震ふべし。

全員 （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。

ソロ （第三句）主はシオンに在りて大なり、彼は萬民の上に高し。

全員 （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。

ソロ （第四句）主に其の美しき聖所に伏拝せよ。

全員 （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。

聖入

輔祭曰く、睿智、肅みて立て。聖入の句、主我が神を崇め讃め、其の足臺に伏し拝めよ、是れ聖なり。

全員 来たれハリストスの前に伏し拝まん、
神の子、肉体にて十字架に釘せられし主や、
爾にアリルイヤを奉る者を救い給え



トロパリ コンダク （第3アンティフォンと同じ）

全員 （讃詞）主よ、爾の民を救ひ、爾の業に福を降せ、我が国にさいわいを
与え、爾の十字架にて爾の住處を守り給へ。



甘じて十字架に挙げられしハリストス神よ／爾が同名の新なる住處に爾の慈憐を賜へ、
爾の力を以て我が国を司る者を樂しめしめて／彼に敵に勝たしめ給へ、
彼は爾のたすけとして／ 平安の武器、
勝たれぬ旗を有てば・ ・ ・ ・ ・ なり。

聖三祝文の代わり

全員 主宰よ、我等爾の十字架に伏拝し、爾の聖なる復活を讃栄す。（3回）



光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に、アミン

爾の聖なる復活を讃栄す。

主宰よ、我等爾の十字架に伏拝し、爾の聖なる復活を讃栄す。

ポロキメン、第七調。

主我が神を崇め讃め、其足臺に伏し拝めよ、是れ聖なり。

ポロキメン 7調



句、主は王たり、諸民戦くべし。

使徒の誦読 コリント書百二十五端、

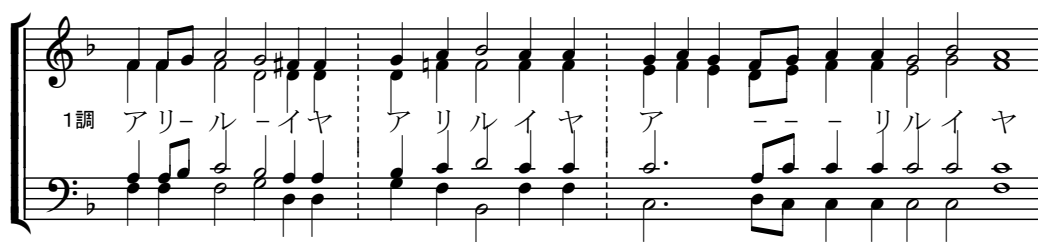
兄弟よ、十字架の言は滅ぶる者の為には愚なり、我等救はるゝ者の為には神の能なり。蓋録して云へるあり、我智者の智を滅し、識者の識を廃せん。智者は安にか在る、学士は安にか在る、此の世の辯論者は安にか在る、神はこの世の智慧を愚に為らしめしに非ずやと。蓋世は其智慧を以て、神を神の智慧に於て識らざりしに由りて、神は傳道の愚を以て、信ずる者を救はんことを喜べり。蓋イウデヤ人は休徴を乞ひ、エルリン人は智慧を覓む、然れども我等は十字架に釘せられしハリストスを傳ふ、此れイウデヤ人の為には礙、エルリン人の為には愚、惟召されたる者の為には、イウデヤ人及びエルリン人を論ぜず、ハリストスは神の能及び神の智慧なり。

(新共同訳) 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。」知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっています。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。(1 コリ 1:18-24)

アリルイヤ、第一調、

爾が古より獲たる会を記憶せよ。

句、神我が古世よりの王は救を地の中に作せり。



司祭 (高声) 睿智肅みて立て、聖福音經を聴くべし、

衆人に平安、

(詠) ^{なんじ}爾の神にも、

輔祭 (某) 伝の聖福音經の読、

(詠) 主や、^{なんじ}光榮は爾に帰す、^{なんじ}光榮は爾に帰す、

福音經の誦読

イオアン六十端。

彼の時司祭諸長と長老等と相会して、イイススを殺さんことを定め、彼を曳きてピラトに至りて曰へり、之を去れ、之を去れ、十字架に釘せよ、十字架に釘せよ。ピラト彼等に謂ふ、爾等彼を取りて、十字架に釘せよ、蓋我彼に罪めるを見ず。

イウデヤ人答へて曰へり、我等に律法あり、我が律法に据れば、彼は死すべし、蓋己を神の子と為せり。ピラト此の言を聞きて、益懼れたり。復公廨に入りて、イイススに謂ふ、爾は奚れよりする。然れどもイイスス被に答を為さざりき。

ピラト彼に調ふ、我に言はざるか、爾豈我に爾を十字架に釘する権あり、亦爾を釈す権あるを知らざるか。イイスス答へて曰へり、上より爾に與へられしに非ざれば、爾我に對して一も権あるなし、

ピラト此の言を聞きて、イイススを外に曳き出し、審判座に、「リフォストヲトン」、エウレイの言にガウワファと名づくる所に坐せり。其日は逾越節の備日にして、時は約六時なり。ピラトイウデヤ人に謂ふ、視よ、爾等の王なり。

然れども彼等號びて曰へり、之を去れ、之を去れ、十字架に釘せよ。ピラト彼等に謂ふ、爾等の王を釘せんか。司祭諸長對へて曰へり、我等にはケサリの外に王なし。

其時ピラト彼を十字架に釘せん為に付せり。

彼等イイススを取りて、曳き行けり。彼己の十字架を負ひ、出で、髑髏の處、エウレイの言にゴルゴファと名づくる所に至れり。彼處に在りて彼を十字架に釘せり、又二人を彼と偕に釘せり、一は右、一は左、イイスス中に在り。ピラト標を書して、十字架の上に置けり、書して云く、イイススナゾレイ、イウデヤ人と王と。イウデヤ人の多くの者此の標を讀めり、蓋イイススの釘せられし處は城に近かりき、其標エウレイ、グレチャ、ロマの文を以て書されたり。

イイススの母と、母の姉妹クレヲパの妻マリヤと、マリヤ「マグダリナ」と、其十字架の旁に立てり。イイススは其母及び愛する所の門徒の此に立てるを見て、母に謂ふ、婦よ、視よ、爾の子なり。次ぎて門徒に謂ふ、視よ、爾の母なり。其時より此の門徒彼を己の家に取れり。厥後イイスス一切の事已に成りたるを知りて、成れり。乃首を俯して、神を付せり。

其日は備節日にして、彼の安息日は大なる日なるに困りて、イウデヤ人は安息日に屍を十字架に留めざらん為、ピラトに、彼等の脛を折りて、屍を取り下さんことを請へり。

故に兵卒来りて、彼と偕に十字架に釘せられし第一の者の脛を折り、第二の者にも亦然せり。イイススに來りて、其已に死したるを見れば、彼の脛を折らざりき、

然れども一人の兵卒戈を以て其の脅を刺せり、忽血と水と出でたり。見し者は證を作せり、其證は眞なり、

(詠) 主や、光榮は爾^{なんじ}に帰す、光榮は爾^{なんじ}に帰す、

以降、「常に福」まで主日聖体礼儀と同じ

常に福に代えて(ズナメニイ・チャントから)

Sputnik psalmoschika

我 が た ま し い よ い と 尊 と き 主 の 十 字 架 を

ほ 讃 め あ げ よ 生 神 女 よ なん じ は 奥 密 な る

ら く 園 耕 さ く せ ら れ ず し て ハ リ ス ト ス を

生 育 せ し も の な り か れ は 生 命 の ち を ほ ど 施 こ す

十 字 架 の 木 を 地 上 に 植 え た ま え り

ゆ え に い ま こ れ を 挙 ぐ る と き

我 等 こ れ を お が み て あ が ー め 讃 ー む

頌聖詞 聖詠 4:7

主 よ なるじのかんばせの

ひかりはわれらにあらわれたり

アーリルーイヤー アーリールーイヤー

アリル --- イヤ